

## 審査意見への対応を記載した書類(6月)

(目次) 情報工学部 情報工学科

### 【設置の趣旨・目的等】

- 1 養成する人材像と3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。)について、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(1) 本学科の養成する人材像に「高校情報および中学/高校数学の教員免許を取得し、次世代の教育を担う人材を育成する」ことを掲げるとともに、本学科の掲げるカリキュラム・ポリシー3に「国際的な場面で情報工学を用いた活躍ができる基本的能力の習得のため、英語教育を実施すること、カリキュラム・ポリシー4に「情報工学の基本となる数学及び情報学の基礎を次世代に伝えることのできる人材を養成するため、数学教員免許(中学/高校)及び情報教員免許(高校)の教育課程を設ける」ことが掲げられているが、これらのカリキュラム・ポリシーに対応するディプロマ・ポリシーが見受けられないことから、適切なディプロマ・ポリシーが設定されているかについて疑義がある。また、これらのカリキュラム・ポリシーに基づき配置される授業科目や教育課程の編成によってディプロマ・ポリシーが達成され、本学の掲げる人材像の養成を達成することができるのか判断としない。このため、養成する人材像、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーが整合していることや適切なディプロマ・ポリシーが設定されていることについて、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(2) (1)のとおり、養成する人材像、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの整合性を判断することができないため、示されたカリキュラム・ポリシーが、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針として妥当なものであるかを判断することができない。このため、(1)への対応を踏まえ、養成する人材像やディプロマ・ポリシーに整合した適切なカリキュラム・ポリシーが設定されていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(3) アドミッション・ポリシーについて、関係する審査意見への対応を踏まえ、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、教育課程等との整合性を担保した上で、妥当なものであることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(是正事項)..... 4

- 2 カリキュラム・ポリシーに学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられないことから、適切に改めること。

(改善事項)..... 10

### 【名称等】

—

—

【教育課程等】

3 本学科の養成する人材像に「ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる能力、あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる能力の育成に努めると共に、高校情報および中学/高校数学の教員免許を取得し、次世代の教育を担う人材を育成する」ことを掲げているが、これらの教員免許に係る教職科目は自由科目となっており、教職免許を取得せずに卒業することができる教育課程になっているものと見受けられ、養成する人材像に掲げるコンピュータ工学やデータ科学の能力を持ち合わせる「次世代の教育を担う人材」を養成することができる教育課程及び卒業要件となっているのか疑義がある。このため、審査意見1への対応も踏まえて、本学科の教育課程が、養成する人材像や3つのポリシーと整合し、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系的担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(是正事項)..... 13

4 設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「実習の目的」において、「教員免許状取得には教育実習が必要となるため、その関連科目を必修科目『教育実習指導(1単位)』、選択必修科目『教育実習Ⅰ(4単位)』『教育実習Ⅱ(3単位)』『教育実習Ⅲ(2単位)』『学校体験活動(1単位)』で構成するとあるが、これらの必修科目及び選択必修科目は基本計画書の教育課程等の概要に記載がなく、本学の教育課程における科目区分の位置づけや担当教員の配置状況等について判然としない。このため、審査意見1及び審査意見3への対応も踏まえながら、教育実習の関連科目である必修科目及び各選択必修科目について、教育課程上の位置付けを明確に説明するとともに、基本計画書の教育課程等の概要や授業科目の概要、設置の趣旨等を記載した書類(本文)など、関係する記載及び説明を適切に改めること。

(是正事項)..... 19

【入学選抜】

5 設置の趣旨等を記載した書類(本文)において、「合格発表が3月下旬となる者を除く入学者に対して、数学、英語、そして物理学の基礎的な学力の確認を目的とする入学前教育を実施する」ことが説明されているが、合格発表が3月下旬となる「一般選抜/KGスカラシップ一般選抜」及び「大学入学共通テスト利用選抜/KGスカラシップ共通テスト利用選抜」のⅢ期入学者の入学者選抜方法は、Ⅰ期及びⅡ期の入学者選抜方法と同様であり、また、入試科目に含まれる理科科目については物理のみならず化学を選択することも可能であることから、Ⅲ期入学者について、特に入学後の物理学の基礎的な学力をどのように担保するものであるのか判然としない。このため、審査意見1(3)への対応も踏まえ、Ⅲ期入学者の入学者選抜において、学生に求める物理学の基礎的な学力について、Ⅰ期及びⅡ期の入学者選抜との差異を明確にしつつ説明した上で、数学、英語、物理学についてのⅢ期入学者の入学後の基礎的な学力をどのように担保するのか明確に説明するとともに、関連する記載を含めて必要に応じて適切に改めること。

(是正事項)..... 23

6 「一般選抜/KGスカラシップ一般選抜」及び「大学入学共通テスト利用選抜/KGスカラシップ共通テスト利用選抜」について、選抜方法が数学や外国語、理科の学力を測るものとなっているが、アドミッション・ポリシーに掲げる「知識や技術を駆使して社会をより良い方向へ変革したいと考えている」ことや「社会に存在する課題を発見し、その解決に積極的に取り組む意思を持つ」ことについて、学力に関する試験のみで判定することは困難であると見受けられることから、示された入学者選抜方法によってアドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を確認できるか判然としない。このため、本学科が定めるアドミッション・ポリシーについて、入学時において全ての学生に求めるものであるのか、又はアドミッション・ポリシーのいずれかを中核的な資質・能力として設定した上で、当該資質・能力を全ての学生に求めつつ、他のアドミッション・ポリシーについて選抜区分ごとに異なる比重で判定するものであるのか明らかにした上で、前者であれば、各選抜区分において、本学部の定める各アドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を適切に身に付けていることを確認することができる入学者選抜が設定されていることについて改めて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。後者である場合には、判定しない又は極めて比重の低いアドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を持つ学生に対して、どのようにディプロマ・ポリシーの達成を担保するのかについて、適切なカリキュラム・ポリシーと教育課程が編成されていることを含めて説明するか、必要に応じて適切に改めること。

(是正事項)..... 24

【教員組織】

- 7 基幹教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教育研究実施組織の将来構想を明確にすること。

(改善事項)..... 26

【施設・設備等】

—

—

【その他】

- 8 本学が公表する情報において、学校教育法施行令第172条の2に規定する、第165条の2第1項に規定により定める方針が見受けられないことから、適切に改めること。

(是正事項)..... 27

- 9 設置の趣旨等を記載した書類において、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引」において説明することを求めている「研究の実施についての考え方、体制、取組」に関する記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(是正事項)..... 28

【学生確保の見通し・人材需要の社会的動向】

—

—

【審査意見以外】

- ・実習の支援体制について(技術支援者がいるのか等)
- ・「確率と統計」を選択科目としている考え方について、及び「マルチメディア表現と技術Ⅰ」「同Ⅱ」を必修科目としている考え方について
- ・「情報科教育法Ⅰ」「同Ⅱ」の担当教員の教科教育法に関する専門性について

..... 30

1 養成する人材像と3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。)について、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(1) 本学科の養成する人材像に「高校情報および中学/高校数学の教員免許を取得し、次世代の教育を担う人材を育成する」ことを掲げるとともに、本学科の掲げるカリキュラム・ポリシー3に「国際的な場面で情報工学を用いた活躍ができる基本的能力の習得のため、英語教育を実施する」こと、カリキュラム・ポリシー4に「情報工学の基本となる数学及び情報学の基礎を次世代に伝えることのできる人材を養成するため、数学教員免許(中学/高校)及び情報教員免許(高校)の教育課程を設ける」ことが掲げられているが、これらのカリキュラム・ポリシーに対応するディプロマ・ポリシーが見受けられないことから、適切なディプロマ・ポリシーが設定されているかについて疑義がある。また、これらのカリキュラム・ポリシーに基づき配置される授業科目や教育課程の編成によってディプロマ・ポリシーが達成され、本学の掲げる人材像の養成を達成することができるのか判断としない。このため、養成する人材像、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーが整合していることや適切なディプロマ・ポリシーが設定されていることについて、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(2) (1)のとおり、養成する人材像、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの整合性を判断することができないため、示されたカリキュラム・ポリシーが、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針として妥当なものであるかを判断することができない。このため、(1)への対応を踏まえ、養成する人材像やディプロマ・ポリシーに整合した適切なカリキュラム・ポリシーが設定されていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(3) アドミッション・ポリシーについて、関係する審査意見への対応を踏まえ、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、教育課程等との整合性を担保した上で、妥当なものであることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

#### (対応)

申請時の養成する人材像はひとつながりの文章で記載され、それら全てを満たす人材を養成するという、申請の意図とは異なる記述となっていた。これを修正するため養成する人材像を整理し、1)コンピュータ工学コースを卒業し企業や自治体等で活躍する人材、あるいは2)データ科学コースを卒業し企業もしくは自治体等で活躍する人材、のいずれかを養成することが明らかになるよう、次のように改めた。

(養成する人材像) 次の人材を養成する。

コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、

- 1) ネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用することにより、社会においてDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進できる人材。
- 2) ビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析により、社会においてDXを推進できる人材。

ここで、希望により取得可能となる教員免許に関する記述は、卒業生全員に当てはまるものではないため、削除することとした。

またディプロマ・ポリシーについても、必修科目あるいはコース別に設定された選択必修科目の単位修得により能力が身につけていることを明確に判定できるよう、以下の形に改めた。

(ディプロマ・ポリシー)

定められた年限在学し、所定の単位(卒業研究を含む)を修得し、DXの推進に必要となる以下を満たす学生の卒業を認定し、学士(工学)の学位を与える。

- 1) コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解している
- 2) コンピュータ工学、あるいはデータ科学の核となる知識と実践力を身に付けている

ディプロマ・ポリシーの1)は養成する人材像全体と対応、2)は養成する人材像の1)あるいは2)と対応している。これらを示すため、設置の趣旨等を記載した書類(資料)の【資料1 養成する人材像とディプロマ・ポリシーの相関及び整合性】を改めた。

審査意見への対応(6月)(資料)

資料2 養成する人材像とディプロマ・ポリシーの相関及び整合性

さらに、ディプロマ・ポリシーを達成すべく編成した授業科目や教育課程を規定するカリキュラム・ポリシーを、コンピュータ科学、コンピュータ工学、データ科学の教育の実施であることが明確になるよう、以下の形に改めた。ここで、ディプロマ・ポリシーに記載されていない教員免許取得に関する記述、及び英語教育に関する記述は削除することとした。同時に、審査意見2を踏まえ、項目5)を追記した。これらの修正にともない、設置の趣旨等を記載した書類(資料)の【資料2 養成する人材像とカリキュラム・ポリシーとの相関及び整合性】を改めた。

(カリキュラム・ポリシー)

- 1) 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。
- 2) コンピュータや情報ネットワークの仕組みの理解に必要となる、コンピュータ科学の科目を開講する。
- 3) 2年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2年次以降それぞれの専門科目を開講する。
- 4) 実践的能力を養うために演習科目を設けるとともに、卒業研究を課す。
- 5) 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。

審査意見への対応(6月)(資料)

**資料3 養成する人材像とカリキュラム・ポリシーの相関及び整合性**

最後に、カリキュラム・ポリシーに沿って編成された教育課程を受けることが可能かを判定する入学者選抜の方針となるアドミッション・ポリシーは、審査意見1及び6に基づき、カリキュラム・ポリシーの修正にともない、以前のもを整理する形で以下のように改めた。1)では情報工学の学びを受ける意欲、2)ではその能力を確認しており、両者を満たすものを受け入れる方針とする。この修正にともない、設置の趣旨等を記載した書類(資料)の【資料3 カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関及び整合性】を改めた。

(アドミッション・ポリシー)

- 1) DXの推進に取り組む意欲を持つ
- 2) 大学で学修するために必要な数学と理科、及び英語の基礎的な力を備えている

審査意見への対応(6月)(資料)

**資料4 カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーの相関及び整合性**

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(本文)(4ページ)

新	旧
<p>① 設置の趣旨及び必要性 1.金沢学院大学の教育理念 &lt;略&gt; 2.情報工学部設置の社会的背景 &lt;略&gt; 3.養成する人材像 &lt;略&gt;</p> <p style="text-align: center;">削除</p> <p>以上をまとめると、情報工学部情報工学科の<b>養成する人材像</b>は次のようになる。 コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、 1) ネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用することにより、社会においてDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進できる人材。 2) ビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析により、社会においてDXを推進できる人材。</p>	<p>① 設置の趣旨及び必要性 1.金沢学院大学の教育理念 &lt;略&gt; 2.情報工学部設置の社会的背景 &lt;略&gt; 3.養成する人材像 &lt;略&gt;</p> <p>同時にこれら2つのコースに、高校情報および中学/高校数学の教員免許取得を可能とする教職課程を組み込むことにより、次世代の理工系の教育を担う人材の養成にも取り組んでいく。</p> <p>以上をまとめると、情報工学部情報工学科の<b>養成する人材像</b>は次のようになる。 情報工学部情報工学科では、コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、AI(人工知能)などの情報技術を駆使し、社会においてDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進できる人材を養成する。その実現のため、ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる能力、あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる能力の育成に努めると共に、高校情報および中学/高校数学の教員免許を取得し、次世代の教育を担う人材を育成する。</p>

#### 4.ディプロマ・ポリシー

養成する人材像を受け、次のとおり**ディプロマ・ポリシー** (**卒業認定・学位授与の方針**)を定めることとする。養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの相関及び整合性は、【資料1】に文字の色分けにより示されている。  
【資料1 養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの相関及び整合性】

##### 情報工学部情報工学科

定められた年限在学し、所定の単位(卒業研究を含む)を修得し、DXの推進に必要な以下を満たす学生の卒業を認定し、学士(工学)の学位を与える。

- 1) コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解している
- 2) コンピュータ工学、あるいはデータ科学の核となる知識と実践力を身に付けている

#### 5.カリキュラム・ポリシー

<略>

以上をまとめ本情報工学部情報工学科の**カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)**は、養成する人材像を受け、次のように設定する。

##### 情報工学部情報工学科

- 1) 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。
- 2) コンピュータや情報ネットワークの仕組みの理解に必要なとなる、コンピュータ科学の科目を開講する。
- 3) 2年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2年次以降それぞれの専門科目を開講する。
- 4) 実践的能力を養うために演習科目を設けるとともに、卒業研究を課す。
- 5) 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。

<略>

#### 6. アドミッション・ポリシー

情報工学部情報工学科では、先に述べたディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに沿った**アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)**を下記のように設定する。カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関及び整合性は、【資料3】に文字の色分けにより示されている。

【資料3 カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関及び整合性】

##### 情報工学部情報工学科

- 1) DXの推進に取り組む意欲を持つ
- 2) 大学で学修するために必要な数学と理科、及び英語の基礎的な力を備えている

<略>

#### 4.ディプロマ・ポリシー

養成する人材像を受け、次のとおり**ディプロマ・ポリシー** (**卒業認定・学位授与の方針**)を定めることとする。養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの相関および整合性は、【資料1】に文字の色分けにより示されている。  
【資料1 養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの相関および整合性】

情報工学部情報工学科では、所定の単位を修めた次の学生の卒業を認定し、学位を授与するものとする。

##### 情報工学部情報工学科

- 1) コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、AI(人工知能)などの情報技術を駆使し、社会においてDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進できる。
- 2) ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる、あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる。

#### 5.カリキュラム・ポリシー

<略>

以上をまとめ本情報工学部情報工学科の**カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)**は、養成する人材像を受け、次のように設定する。

##### 情報工学部情報工学科

- 1) 情報工学の専門分野に関する幅広い知識を修得した人材を養成するために、コンピュータ科学、コンピュータ工学、そしてデータ科学領域の教育を実施する。
- 2) 情報工学の基礎となる数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。
- 3) 国際的な場面で情報工学を用いた活躍ができる基本的能力の修得のため、英語教育を実施する。
- 4) 情報工学の基本となる数学および情報学の基礎を次世代に伝えることのできる人材を養成するため、教学教員免許(中学/高校)および情報教員免許(高校)の養成課程を設ける。

<略>

#### 6. アドミッション・ポリシー

情報工学部情報工学科では、先に述べたディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに沿った**アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)**を下記のように設定する。カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関および整合性は、【資料3】に文字の色分けにより示されている。

【資料3 カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関および整合性】

##### 情報工学部情報工学科

- 1) 情報工学を体系的に学び、その知識や技術を駆使して地域社会はもとよりグローバルに社会をより良い方向へ変革したいと考えている人。
- 2) 社会に存在する課題を発見し、その解決に積極的に取り組む意志を持つ人。
- 3) 大学で学修するために必要な数学と科学そして英語の基礎的な力を備え、さらにそれを伸長する努力を惜しまない人。
- 4) 物事を論理的に考えられる人。
- 5) 自分の考えを的確に伝え、相手の考えを的確に捉えることのできる人。

<略>

新	旧
<p data-bbox="329 740 360 1640">【資料 1】 養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの相関及び整合性</p> <div data-bbox="408 362 861 1640"><p data-bbox="417 1388 444 1572">養成する人材像</p><p data-bbox="444 388 516 1572">コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、ネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用することにより、社会においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる人材。</p><p data-bbox="516 388 560 1572">2. ビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析により、社会においてDXを推進できる人材。</p><p data-bbox="641 388 718 1522">ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針) 定められた年限在学し、所定の単位(卒業研究を含む)を修得し、DXの推進に必要な以下を満たす学生の卒業を認定し、学士(工学)の学位を与える。</p><ol data-bbox="718 539 763 1522" style="list-style-type: none"><li>1) コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解している</li><li>2) コンピュータ工学、あるいはデータ科学の核となる知識と実践力を身に付けている</li></ol><p data-bbox="826 362 852 632">補正により全体を修正</p></div> <p data-bbox="870 876 888 1086">- 設置の趣旨(資料)- 2 -</p>	<p data-bbox="946 740 976 1640">【資料 1】 養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの相関および整合性</p> <div data-bbox="1023 388 1399 1640"><p data-bbox="1050 413 1166 1590">し、社会においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる人材を養成する。その実現のため、ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる能力、あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる能力の育成に努め、高校情報および中学/高校数学の教員免許を取得し、次世代の教育を担う人材を育成する。</p><p data-bbox="1229 960 1256 1547">ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針) 所定の単位を修めた次の学生の卒業を認定し、学位を授与するものとする。</p><p data-bbox="1300 1262 1327 1522">情報工学部情報工学科</p><ol data-bbox="1327 413 1399 1547" style="list-style-type: none"><li>1. コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、AI(人工知能)などの情報技術を駆使し、社会においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる。</li><li>2. ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる。あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる。</li></ol></div> <p data-bbox="1462 902 1480 1111">- 設置の趣旨(資料)- 2 -</p>

新	旧
<p><b>【資料2】 養成する人材像とカリキュラム・ポリシーとの相関及び整合性</b></p> <p>養成する人材像 コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、ネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用することにより、社会においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる人材。 ビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析により、社会においてDXを推進できる人材。</p> <p>カリキュラム標準 J17 コンピュータエンジニアリング領域 コンピュータ科学領域</p> <p>データサイエンス・カリキュラム標準</p> <p>カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針) 1. 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。 2. コンピュータや情報ネットワークの仕組みの理解に必要となる、コンピュータ科学の科目を開講する。 3. 2年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2年次以降それぞれの専門科目を開講する。 4. 実践的能力を養うために演習科目を設けるとともに、卒業研究を課す。 5. 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。</p> <p>— 設置の趣旨(資料) — 3 — 補正により全体を修正</p>	<p><b>【資料2】 養成する人材像とカリキュラム・ポリシーとの相関および整合性</b></p> <p>AI（人工知能）などの情報技術を駆使し、社会においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる人材を養成する。その実現のため、ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる能力、あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる能力の育成に努め、高校情報および中学/高校数学の教員免許を取得し、次世代の教育を担う人材を育成する。</p> <p>カリキュラム標準 J17 コンピュータエンジニアリング領域 コンピュータ科学領域</p> <p>データサイエンス・カリキュラム標準</p> <p>カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針) 情報工学部情報工学科 1. 情報工学の専門分野に関する幅広い知識を修得した人材を養成するために、コンピュータ工学、コンピュータ科学、そしてデータ科学領域の教育を実施する。 2. 情報工学の基礎となる数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。 3. 国際的な場面で情報工学を用いた活躍ができる基本的な能力の修得のため、英語教育を実施する。 4. 情報工学の基本となる数学および情報学の基礎を次世代に伝えることのできる人材を養成するため、情報工学の教員免許(中学/高校) および情報教員免許(高校)の養成課程を設ける。</p> <p>— 設置の趣旨(資料) — 3 —</p>



【資料 3】カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーの相関及び整合性

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1. 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。
2. コンピュータや情報ネットワークの仕組みの理解に必要な、コンピュータ科学の科目科目を開講する。
3. 2年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2年次以降それぞれの専門科目を開講する。
4. 実践的能力を養うために演習科目を設けるとともに、卒業研究を課す。
5. 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

1. DXの推進に取り組む意欲を持つ
2. 大学で学修するために必要な数学と理科、及び英語の基礎的な力を備えている

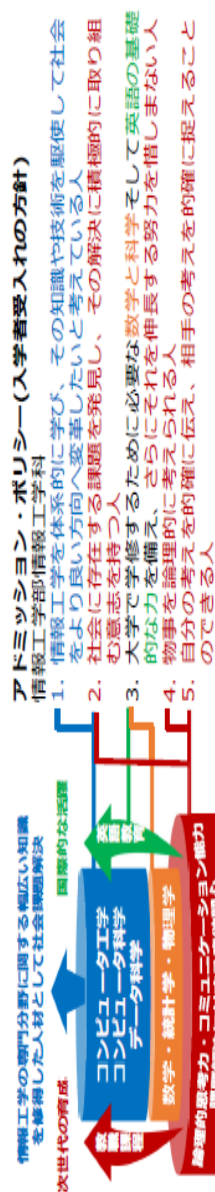
修正により全体を修正

— 設置の趣旨(資料) — 4 —

【資料 3】カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーの相関および整合性

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1. 情報工学の専門分野に関する幅広い知識を修得した人材を養成するために、コンピュータ工学、コンピュータ科学、データ科学、そしてデータ科学領域の教育を実施する。
2. 情報工学の基礎となる数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。
3. 国際的な場面で情報工学を用いた活躍ができる基本的能力の修得のため、英語教育を実施する。
4. 情報工学の基本となる数学および情報学の基礎を次世代に伝えることのできる人材を養成するため、数学教員免許(中学/高校)および情報教員免許(高校)の養成課程を設ける。



— 設置の趣旨(資料) — 4 —

(改善事項) 情報工学部 情報工学科

2 カリキュラム・ポリシーに学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

審査意見を踏まえ、学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述を5)として加えることとし、前述のようにカリキュラム・ポリシーを以下のように改めると同時に、カリキュラム・ポリシーが記されている設置の趣旨等を記載した書類(資料)の【資料2】、【資料3】の記載を改めた。追記した5)は、カリキュラム・ポリシーの1)~4)の適切な運用を保証する項目となると考える。

(カリキュラム・ポリシー)

- 1) 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。
- 2) コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解するために必要となる、コンピュータ科学の科目を開講する。
- 3) 2年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2年次以降それぞれの専門科目を開講する。
- 4) 実践的能力を養う実習科目を設けるとともに、卒業研究を課す。
- 5) 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(本文)(5ページ)

新	旧
<p>① 設置の趣旨及び必要性</p> <p>1.金沢学院大学の教育理念 &lt;略&gt;</p> <p>2.情報工学部設置の社会的背景 &lt;略&gt;</p> <p>3.養成する人材像 &lt;略&gt;</p> <p>4.ディプロマ・ポリシー &lt;略&gt;</p> <p>5.カリキュラム・ポリシー &lt;略&gt;</p> <p>以上をまとめ本情報工学部情報工学科のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)は、養成する人材像を受け、次のように設定する。</p> <p><b>情報工学部情報工学科</b></p> <p>1) 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。</p> <p>2) コンピュータや情報ネットワークの仕組みの理解に必要なとなる、コンピュータ科学の科目を開講する。</p> <p>3) 2年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2年次以降それぞれの専門科目を開講する。</p> <p>4) 実践的能力を養う科目を実習設けるとともに、卒業研究を課す。</p> <p>5) 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。</p> <p>&lt;略&gt;</p>	<p>① 設置の趣旨及び必要性</p> <p>1.金沢学院大学の教育理念 &lt;略&gt;</p> <p>2.情報工学部設置の社会的背景 &lt;略&gt;</p> <p>3.養成する人材像 &lt;略&gt;</p> <p>4.ディプロマ・ポリシー &lt;略&gt;</p> <p>5.カリキュラム・ポリシー &lt;略&gt;</p> <p>以上をまとめ本情報工学部情報工学科のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)は、養成する人材像を受け、次のように設定する。</p> <p><b>情報工学部情報工学科</b></p> <p>1) 情報工学の専門分野に関する幅広い知識を修得した人材を養成するために、コンピュータ科学、コンピュータ工学、そしてデータ科学領域の教育を実施する。</p> <p>2) 情報工学の基礎となる数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。</p> <p>3) 国際的な場面で情報工学を用いた活躍ができる基本的能力の修得のため、英語教育を実施する。</p> <p>4) 情報工学の基本となる数学および情報学の基礎を次世代に伝えることのできる人材を養成するため、数学教員免許(中学/高校)および情報教員免許(高校)の養成課程を設ける。</p> <p>&lt;略&gt;</p>

新	旧
<p>【資料2】 養成する人材像とカリキュラム・ポリシーとの相関及び整合性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>養成する人材像</p> <p>コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解しうえで、ネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用することにより、社会においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる人材。</p> <p>ビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析により、社会においてDXを推進できる人材。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center;">             カリキュラム標準 J17 コンピュータエンジニアリング領域 コンピュータ科学領域         </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center;">             データサイエンス・カリキュラム標準         </div> </div> <p>カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。</li> <li>2. コンピュータや情報ネットワークの仕組みの理解に必要となる、コンピュータ科学の科目を開講する。</li> <li>3. 2年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2年次以降それぞれの専門科目を開講する。</li> <li>4. 実践的能力を養うために演習科目を設けるとともに、卒業研究を課す。</li> <li>5. 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。</li> </ol> <p style="text-align: right;">補正により全体を修正</p> <p style="text-align: center;">— 設置の趣旨(資料) — 3 —</p>	<p>【資料2】 養成する人材像とカリキュラム・ポリシーとの相関および整合性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>AI（人工知能）などの情報技術を駆使し、社会においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる人材を養成する。その実現のため、ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる能力、あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる能力の育成に努め、高校情報および中学/高校数学の教員免許を取得し、次世代の教育を担う人材を育成する。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center;">             カリキュラム標準 J17 コンピュータエンジニアリング領域 コンピュータ科学領域         </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center;">             データサイエンス・カリキュラム標準         </div> </div> <p>カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)</p> <p>情報工学部情報工学科</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報工学の専門分野に関する幅広い知識を修得した人材を養成するために、コンピュータ工学、コンピュータ科学、そしてデータ科学領域の教育を実施する。</li> <li>2. 情報工学の基礎となる数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。</li> <li>3. 国際的な場面で情報工学を用いた活躍ができる基本的能力の修得のため、英語教育を実施する。</li> <li>4. 情報工学の基本となる数学および情報学の基礎を次世代に伝えることのできる人材を養成する。め、数学教員免許（中学/高校）および情報教員免許（高校）の養成課程を設ける。</li> </ol> <p style="text-align: center;">— 設置の趣旨(資料) — 3 —</p>

【資料 3】カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーの相関及び整合性

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1. 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。
2. コンピュータや情報ネットワークの仕組みの理解に必要な、コンピュータ科学の科目を開講する。
3. 2年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2年次以降それぞれの専門科目を開講する。
4. 実践的能力を養うために演習科目を設けるとともに、卒業研究を課す。
5. 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

1. DXの推進に取り組む意欲を持つ
2. 大学で学修するために必要な数学と理科、及び英語の基礎的な力を備えている

補正により全体を修正

— 設置の趣旨(資料) — 4 —

【資料 3】カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーの相関および整合性

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

- 情報工学部情報工学科
1. 情報工学の専門分野に関する幅広い知識を修得した人材を養成するために、コンピュータ工学、コンピュータ科学、そしてデータ科学領域の教育を実施する。
  2. 情報工学の基礎となる数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。
  3. 国際的な場面で情報工学を用いた活躍ができる基礎的な能力の修得のため、英語教育を実施する。
  4. 情報工学の基本となる数学および情報科学の基礎を次世代に伝えることのできる人材を養成するため、数学教員免許(中学/高校)および情報教員免許(高校)の養成課程を設ける。



アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

- 情報工学部情報工学科
1. 情報工学を体系的に学び、その知識や技術を駆使して社会をより良い方向へ変革したいと考えている人
  2. 社会に存在する課題を発見し、その解決に積極的に取り組む意志を持つ人
  3. 大学で学修するために必要な数学と科学そして英語の基礎的な力を備え、さらにそれを伸長する努力を惜しまない人
  4. 物事を論理的に考えられる人
  5. 自分の考えを的確に伝え、相手の考えを的確に捉えることのできる人

— 設置の趣旨(資料) — 4 —

(是正事項) 情報工学部 情報工学科

3 本学科の養成する人材像に「ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる能力、あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる能力の育成に努めると共に、高校情報および中学/高校数学の教員免許を取得し、次世代の教育を担う人材を育成する」ことを掲げているが、これらの教員免許に係る教職科目は自由科目となっており、教職免許を取得せずに卒業することができる教育課程になっているものと見受けられ、養成する人材像に掲げるコンピュータ工学やデータ科学の能力を持ち合わせる「次世代の教育を担う人材」を養成することができる教育課程及び卒業要件となっているのか疑義がある。このため、審査意見1への対応も踏まえて、本学科の教育課程が、養成する人材像や3つのポリシーと整合し、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系的が担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見1への対応の記載にあるように、教員免許取得は希望者に限定されるものであることが申請の意図であり、それは卒業生全員に対するものではないことよりその記述を削除し、養成する人材像を以下のように改めた。

(養成する人材像) 次の人材を養成する。

コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、

- 1) ネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用することにより、社会においてDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進できる人材。
- 2) ビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析により、社会においてDXを推進できる人材。

したがって、教員免許を取得せずに卒業できる教育課程になっていることに問題はないと考える。また、修正した養成する人材像と整合性を持つよう、3つのポリシーを以下のように改めると同時に、これらの相関及び整合性を図示した設置の趣旨等を記載した書類(資料)の【資料1】～【資料3】を改めた。

(ディプロマ・ポリシー)

定められた年限在学し、所定の単位(卒業研究を含む)を修得し、DXの推進に必要となる以下を満たす学生の卒業を認定し、学士(工学)の学位を与える。

- 1) コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解している
- 2) コンピュータ工学、あるいはデータ科学の核となる知識と実践力を身に付けている

(カリキュラム・ポリシー)

1) 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。

2) コンピュータや情報ネットワークの仕組みの理解に必要となる、コンピュータ科学の科目を開講する。

3) 2年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2年次以降それぞれの専門科目を開講する。

4) 実践的能力を養うために演習科目を設けるとともに、卒業研究を課す。

5) 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。

(アドミッション・ポリシー)

1) DXの推進に取り組む意欲を持つ

2) 大学で学修するために必要な数学と理科、及び英語の基礎的な力を備えている

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(本文)(4ページ)

新	旧
<p>① 設置の趣旨及び必要性 1.金沢学院大学の教育理念 &lt;略&gt; 2.情報工学部設置の社会的背景 &lt;略&gt; 3.養成する人材像 &lt;略&gt;</p> <p style="text-align: center;">削除</p> <p>以上をまとめると、情報工学部情報工学科の<b>養成する人材像</b>は次のようになる。 コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、 1) ネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用することにより、社会においてDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進できる人材。 2) ビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析により、社会においてDXを推進できる人材。</p> <p>4.ディプロマ・ポリシー 養成する人材像を受け、次のとおり<b>ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)</b>を定めることとする。養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの相関及び整合性は、【資料1】に文字の色分けにより示されている。 【資料1 養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの相関及び整合性】</p> <p><b>情報工学部情報工学科</b> 定められた年限在学し、所定の単位(卒業研究を含む)を修得し、DXの推進に必要となる以下を満たす学生の卒業を認定し、学士(工学)の学位を与える。 1) コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解している 2) コンピュータ工学、あるいはデータ科学の核となる知識と実践力を身に付けている</p>	<p>① 設置の趣旨及び必要性 1.金沢学院大学の教育理念 &lt;略&gt; 2.情報工学部設置の社会的背景 &lt;略&gt; 3.養成する人材像 &lt;略&gt; 同時にこれら2つのコースに、高校情報および中学/高校数学の教員免許取得を可能とする教職課程を組み込むことにより、次世代の理工系の教育を担う人材の養成にも取り組んでいく。</p> <p>以上をまとめると、情報工学部情報工学科の<b>養成する人材像</b>は次のようになる。 情報工学部情報工学科では、コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、AI(人工知能)などの情報技術を駆使し、社会においてDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進できる人材を養成する。その実現のため、ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる能力、あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる能力の育成に努めると共に、高校情報および中学/高校数学の教員免許を取得し、次世代の教育を担う人材を育成する。</p> <p>4.ディプロマ・ポリシー 養成する人材像を受け、次のとおり<b>ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)</b>を定めることとする。養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの相関および整合性は、【資料1】に文字の色分けにより示されている。 【資料1 養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの相関および整合性】</p> <p>情報工学部情報工学科では、所定の単位を修めた次の学生の卒業を認定し、学位を授与するものとする。</p> <p><b>情報工学部情報工学科</b> 1) コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、AI(人工知能)などの情報技術を駆使し、社会においてDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進できる。 2) ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる、あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる。</p>

## 5.カリキュラム・ポリシー

<略>

以上をまとめ本情報工学部情報工学科の**カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)**は、養成する人材像を受け、次のように設定する。

### 情報工学部情報工学科

- 1) 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。
- 2) コンピュータや情報ネットワークの仕組みの理解に必要なとなる、コンピュータ科学の科目を開講する。
- 3) 2年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2年次以降それぞれの専門科目を開講する。
- 4) 実践的能力を養うために演習科目を設けるとともに、卒業研究を課す。
- 5) 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。

<略>

## 6. アドミッション・ポリシー

情報工学部情報工学科では、先に述べたディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに沿った**アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)**を下記のように設定する。カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関及び整合性は、【資料3】に文字の色分けにより示されている。  
【資料3 カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関及び整合性】

### 情報工学部情報工学科

- 1) DXの推進に取り組む意欲を持つ
- 2) 大学で学修するために必要な数学と理科、及び英語の基礎的な力を備えている

## 5.カリキュラム・ポリシー

<略>

以上をまとめ本情報工学部情報工学科の**カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)**は、養成する人材像を受け、次のように設定する。

### 情報工学部情報工学科

- 1) 情報工学の専門分野に関する幅広い知識を修得した人材を養成するために、コンピュータ科学、コンピュータ工学、そしてデータ科学領域の教育を実施する。
- 2) 情報工学の基礎となる数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。
- 3) 国際的な場面で情報工学を用いた活躍ができる基本的能力の修得のため、英語教育を実施する。
- 4) 情報工学の基本となる数学および情報学の基礎を次世代に伝えることのできる人材を養成するため、数学教員免許(中学/高校)および情報教員免許(高校)の養成課程を設ける。

<略>

## 6. アドミッション・ポリシー

情報工学部情報工学科では、先に述べたディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに沿った**アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)**を下記のように設定する。カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関および整合性は、【資料3】に文字の色分けにより示されている。  
【資料3 カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関および整合性】

### 情報工学部情報工学科

- 1) 情報工学を体系的に学び、その知識や技術を駆使して地域社会はもとよりグローバルに社会をより良い方向へ変革したいと考えている人。
- 2) 社会に存在する課題を発見し、その解決に積極的に取り組む意志を持つ人。
- 3) 大学で学修するために必要な数学と科学そして英語の基礎的な力を備え、さらにそれを伸長する努力を惜しまない人。
- 4) 物事を論理的に考えられる人。
- 5) 自分の考えを的確に伝え、相手の考えを的確に捉えることのできる人。

新	旧
<p><b>【資料 1】 養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの相関及び整合性</b></p> <p><b>養成する人材像</b>                  コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、ネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用することにより、社会においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる人材。                  ビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析により、社会においてDXを推進できる人材。</p> <p><b>ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)</b>                  定められた年限在学し、所定の単位（卒業研究を含む）を修得し、DXの推進に必要な以下を満たす学生の卒業を認定し、学士（工学）の学位を与える。                  1) コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解している                  2) コンピュータ工学、あるいはデータ科学の核となる知識と実践力を身に付けている</p> <p>補正により全体を修正</p> <p style="text-align: center;">— 設置の趣旨(資料)ー 2 —</p>	<p><b>【資料 1】 養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの相関および整合性</b></p> <p>し、社会においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる人材を養成する。その実現のため、ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる能力、あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる能力の育成に努め、高校情報および中学/高校数学の教員免許を取得し、次世代の教育を担う人材を育成する。</p> <p><b>ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)</b>                  所定の単位を修めた次の学生の卒業を認定し、学位を授与するものとする。                  情報工学部情報工学科                  1. コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、AI(人工知能)などの情報技術を駆使し、社会においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる。                  2. ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる。あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる。</p> <p style="text-align: center;">— 設置の趣旨(資料)ー 2 —</p>



新	旧
<p><b>【資料 2】 養成する人材像とカリキュラム・ポリシーとの相関及び整合性</b></p> <p>養成する人材像 コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、ネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・構築・運用することにより、社会においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる人材。 ビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析により、社会においてDXを推進できる人材。</p> <p>カリキュラム標準 J17 コンピュータエンジニアリング領域 コンピュータ科学領域</p> <p>データサイエンス・カリキュラム標準</p> <p>カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。</li> <li>2. コンピュータや情報ネットワークの仕組みの理解に必要となる、コンピュータ科学の科目を開講する。</li> <li>3. 2年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2年次以降それぞれ専門科目を開講する。</li> <li>4. 実践的能力を養うために演習科目を設けるとともに、卒業研究を課す。</li> <li>5. 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。</li> </ol> <p>補正により 全体を修正</p>	<p><b>【資料 2】 養成する人材像とカリキュラム・ポリシーとの相関および整合性</b></p> <p>し、社会においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる人材を養成する。その実現のため、ハードウェアの理解に基づいたネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用できる能力、あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析ができる能力の育成に努め、<b>高校情報および中学/高校数学の教員免許を取得し、次世代の教育を担う人材を育成する。</b></p> <p>カリキュラム標準 J17 コンピュータエンジニアリング領域 コンピュータ科学領域</p> <p>データサイエンス・カリキュラム標準</p> <p>カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)</p> <p>情報工学部情報工学科</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報工学の専門分野に関する幅広い知識を修得した人材を養成するために、コンピュータ工学、コンピュータ科学、そしてデータ科学領域の教育を実施する。</li> <li>2. 情報工学の基礎となる数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。</li> <li>3. 国際的な場面で情報工学を用いた活躍ができる基本的な能力の修得のため、英語教育を実施する。</li> <li>4. <b>情報工学の基本となる数学および情報学の基礎を次世代に伝えることのできる人材を養成するた</b> <b>め、数学教員免許（中学/高校）および情報教員免許（高校）の養成課程を設ける。</b></li> </ol> <p>－ 設置の趣旨(資料)－ 3 －</p>

【資料3】カリキュラム・ポリシーとアドミSSION・ポリシーの相関及び整合性

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1. 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。
2. コンピュータや情報ネットワークの仕組みの理解に必要な、コンピュータ科学の科目を開講する。
3. 2年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2年次以降それぞれ専門科目を開講する。
4. 実践的能力を養うために演習科目を設けるとともに、卒業研究を課す。
5. 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。

アドミSSION・ポリシー(入学者受入れの方針)

1. DXの推進に取り組む意欲を持つ
2. 大学で学修するために必要な数学と理科、及び英語の基礎的な力を備えている

補正により全体を修正

【資料3】カリキュラム・ポリシーとアドミSSION・ポリシーの相関および整合性

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1. 情報工学の専門分野に関する幅広い知識を修得した人材を養成するために、コンピュータ工学、コンピュータ科学、そしてデータ科学領域の教育を実施する。
2. 情報工学の基礎となる数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。
3. 国際的な場面で情報工学を用いた活躍ができる基礎的な能力の修得のため、英語教育を実施する。
4. 情報工学の基本となる数学および情報科学の基礎を次世代に伝えることのできる人材を養成するため、数学教員免許(中学/高校)および情報教員免許(高校)の養成課程を設ける。



アドミSSION・ポリシー(入学者受入れの方針)

1. 情報工学を体系的に学び、その知識や技術を使用して社会をより良い方向へ変革したいと考えている人
2. 志望志を持つ人
3. 大学で学修するために必要な数学と科学そして英語の基礎的な力を備え、さらにそれを伸長する努力を惜しまない人
4. 物事を論理的に考えられる人
5. 自分の考えを的確に伝え、相手の考えを的確に捉えることのできる人

(是正事項) 情報工学部 情報工学科

4 設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「実習の目的」において、「教員免許状取得には教育実習が必要となるため、その関連科目を必修科目『教育実習指導(1単位)』、選択必修科目『教育実習Ⅰ(4単位)』『教育実習Ⅱ(3単位)』『教育実習Ⅲ(2単位)』『学校体験活動(1単位)』で構成するとあるが、これらの必修科目及び選択必修科目は基本計画書の教育課程等の概要に記載がなく、本学の教育課程における科目区分の位置づけや担当教員の配置状況等について判然としない。このため、審査意見1及び審査意見3への対応も踏まえながら、教育実習の関連科目である必修科目及び各選択必修科目について、教育課程上の位置付けを明確に説明するとともに、基本計画書の教育課程等の概要や授業科目の概要、設置の趣旨等を記載した書類(本文)など、関係する記載及び説明を適切に改めること。

(対応)

教職課程は、「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の大きく3つの科目群から構成されており、学科の教育課程に含まれるのは2番目と3番目の科目群となる。1番目の科目群は『学則別表第8 大学共通教育課程(教育学部は除く)(1)教育の基礎的理解に関する科目等(中高教諭)』が定めるように、全学的な組織である教職センター委員会の管理運営のもと全学で共同開講しているものを利用する計画である。指摘を受けた科目は、この「教育の基礎的理解に関する科目等(この中に情報工学部の基幹教員が担当する科目は含まれていない)」に含まれているため、今般の情報工学部情報工学科の教育課程等の概要や授業科目の概要に含まれることはない。なお現在これら3つの教職課程に関する科目群の適正は、今般の学部認可申請とは別途、文部科学省にて審査中である。

**審査意見への対応(6月)(資料)**

**資料1 学則別表第8 大学共通教育課程(教育学部は除く)**

**(1)教育の基礎的理解に関する科目等(中高教諭)**

本審査意見は、今般の情報工学部情報工学科の認可設置に関わる設置の趣旨等を記載した書類(本文)に、それとは別途申請を行っている高校情報及び中学/高校数学の教員免許取得に関する科目名等を記載したことが原因となっていると思われる。この点を解消するため、設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「⑥実習の具体的計画」の「ア 実習の目的」を以下のように修正した。

**ア 実習の目的**

本学科では、高校情報および中学/高校数学の教員免許取得を可能とする。そのため希望者は、全学組織である教職センター委員会により管理運営されている教育実習に行くこととする。

さらに、「イ 実習先の確保の状況」以降においても、教育実習の主体は情報工学部ではなく教職センター委員会であること等を明記すると同時に、本申請とは別途申請している教職課程に係る教育実習に関する記述を簡略化し、「サ その他の事項」において教育実習を行う学生に対する情報工学部情報工学科としての配慮を記載した。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(本文)(16ページ)

新	旧
<p><b>⑥ 実習の具体的計画</b></p> <p><b>ア 実習の目的</b>            本学科では、高校情報および中学/高校数学の<b>教員免許取得を可能とする。そのため希望者は、全学組織である教職センター委員会により管理運営されている教育実習に行くこととする。</b></p> <p><b>イ 実習先の確保の状況</b>  <b>情報工学部</b>の学生向けとして、<b>本学の教員養成課程に新たに加わる</b>こととなる<b>中学/高校数学、高校情報の教員免許取得に関する教育実習・学校体験活動の受け入れ先</b>については、本学と包括連携協定を結ぶ自治体の教育委員会に依頼し、金沢市・野々市市・白山市・かほく市の公立中学校計38校及び金沢学院大学附属中学校での受入について、それぞれ<b>新たに</b>承諾を得ている。また、石川県内の公立高等学校2校及び金沢学院大学附属高等学校でも、<b>新たに</b>同様の受け入れ承諾を得ている。</p> <p>&lt;略&gt;</p> <p><b>ウ 実習先との契約内容</b>  <b>教育実習の依頼については、全学的な組織である教職センター委員会</b>が<b>主体となり</b>、実習施設の環境や業務内容、受け入れ体制等の確認を経たうえで、文書をもって正式な実習依頼を行うこととしている。</p> <p>削除</p> <p><b>エ 実習水準の確保の方策</b>            教育実習の実施にあたり、教師としての使命や責任感及びそれを遂行するための最低限の知識と職業能力を修得していること、実習先で教職員や生徒、及び保護者に不必要な負担を掛けないため、金沢学院大学『教育実習の手引』などを用いて事前指導にあたる。</p> <p>削除</p>	<p><b>⑥ 実習の具体的計画</b></p> <p><b>ア 実習の目的</b>            本学科では、高校情報および中学/高校数学の教員養成を教育目的の一つとして掲げている。教員免許状取得には教育実習が必要となるため、その関連科目を必修科目「教育実習指導(1単位)」、選択必修科目「教育実習Ⅰ(4単位)」「教育実習Ⅱ(3単位)」「教育実習Ⅲ(2単位)」「学校体験活動(1単位)」で構成する。            これらより、中学校教員免許状の取得を目指すものは「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」及び「学校体験活動」の中から5単位以上、高校教員免許状の取得を目指すものは3単位以上を習得することとしている。</p> <p><b>イ 実習先の確保の状況</b>            教育実習・学校体験活動の受け入れ先については、本学と包括連携協定を結ぶ自治体の教育委員会に依頼し、金沢市・野々市市・白山市・かほく市の公立中学校計38校及び金沢学院大学附属中学校での受入について、それぞれ承諾を得ている。また、石川県内の公立高等学校2校及び金沢学院大学附属高等学校でも、同様の受け入れ承諾を得ている。</p> <p>&lt;略&gt;</p> <p><b>ウ 実習先との契約内容</b>            実習の依頼については、実習施設の環境や業務内容、受け入れ体制等の確認を経たうえで、文書をもって正式な実習依頼を行うこととしている。…(略)…事故発生時の緊急連絡・連携体制を明確に定めることとしている。</p> <p><b>エ 実習水準の確保の方策</b>            教育実習の実施にあたり、教師としての使命や責任感及びそれを遂行するための最低限の知識と職業能力を修得していること、実習先で教職員や生徒、及び保護者に不必要な負担を掛けないためにも、細心の配慮と綿密な準備をしておくことは、極めて重要である。そのため、金沢学院大学『教育実習の手引』などを用いて事前指導にあたる。            また、実習への送り出しにあたっては、…(略)…100単位以上であることも実習を認める条件である。</p>

#### オ 実習先との連携体制

教育実習の実施を依頼する教育委員会・実習校との運営協議会を開催し、実施方法等の調整を行う。また、必要に応じて教育委員会や実習校に教員を派遣して連携をとる。

削除

#### カ 実習前の準備状況(感染予防対策・保険等の加入状況)

実習実施にあたっては、健康診断の受診を義務付ける。また、学生教育研究災害傷害保険については、入学時に全学生が加入することとしている。

削除

#### キ 事前・事後における指導計画

##### ● 事前指導

実施計画に基づき、教職センター主催の教職課程オリエンテーション、教職課程履修者対象のガイダンス、事前指導、教育実習の直前指導を実施する。

##### ● 事後指導

実施計画に基づき事後指導を行うほか、実習終了後に「教育実習報告会」を実施する。

#### オ 実習先との連携体制

教育実習の実施を依頼する教育委員会・実習校との運営協議会を開催し、実施方法等の調整を行う。また、必要に応じて教育委員会や実習校に教員を派遣して連携をとることとしている。なお、これら連携を円滑に実施するため、金沢学院大学教職センターを平成30年度より設置し、実質的な運営及び窓口として、全学的な教員養成体制を構築している。

#### カ 実習前の準備状況(感染予防対策・保険等の加入状況)

実習実施にあたっては、健康診断の受診を義務付ける。また、学生教育研究災害傷害保険については、入学時に全学生が加入することとしている。また教材研究や模擬授業を効率的に実施するため、教職センターを学習の場として準備する。

#### キ 事前・事後における指導計画

##### ● 事前指導

実施計画に基づき、1年次前期5月、2年次前期4月および後期1～2月、3年次前期4～7月および後期1～2月に教職センター主催の教職課程オリエンテーション及び教職課程履修者対象のガイダンスを実施する。また、4年次の「教育実習指導(1単位)」で事前指導を行うほか、毎年5月に石川県教育長を招いての特別指導講話なども実施する。4年次前期4月および5月には、教育実習の直前指導も実施する。

##### ● 事後指導

実施計画に基づき、4年次の「教育実習指導(1単位)」で事後指導を行うほか、実習終了後に「教育実習報告会」を実施する。その他、教職センターによる「教員採用試験受験報告会」や「教育職員免許状申請ガイダンス」などの機会も活用して実施する。実施内容としては、実習中に経験したことを基に、大学教員の指導を受けて実習の振り返りを行い、現職教員等による教育講話等も実施する。また、実習の成果を各自ポートフォリオ化し、教職履修カルテ作成のための基礎資料とする。

**ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画**

教育実習期間中は、教育実習の担当者(所属学部の教職センター委員)及び指導教員が巡回指導を実施し、実習の目的・目標が実習施設でどのように実践されているかを把握する。

削除

**ケ 実習施設における指導者の配置計画**

教育実習担当教員を中心に指導に当たることとし、実習校ごとに担当教員を配置し実習の開始・終了時に実習校に派遣する。

削除

**コ 成績評価体制及び単位認定方法**

実習校から提出された「教育実習評価票」(所定様式)による評価及び実習生から提出された「教育実習記録」等をもとに、教育実習担当教員が評価を行う。

削除

**サ その他特記事項**

教育実習期間中に実施される講義については、補講を行う等、科目履修に支障がないよう配慮する。

**ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画**

実習期間中は、教育実習の担当者(所属学部の教職センター委員)及び指導教員が巡回指導を実施し、実習の目的・目標が実習施設でどのように実践されているかを把握することとする。なお、実習担当者については、それぞれ中学校や高校等の現場での指導歴のある専任教員を中心に配置する。

**ケ 実習施設における指導者の配置計画**

教育実習担当教員を中心に指導に当たることとし、実習校ごとに担当教員を配置し実習の開始・終了時に実習校に派遣する。また、研究授業に指導教員を派遣し、授業参観を行い、指導・助言を与える。なお石川県外の出身学校での実習の場合には、可能な限り実習中に指導教員が巡回する。ただし、遠隔地で巡回しない場合であっても担当教員を配置し、実習校との連絡窓口として対応する。

**コ 成績評価体制及び単位認定方法**

実習校から提出された「教育実習評価票」(所定様式)による評価及び実習生から提出された「教育実習記録」等をもとに、教育実習担当教員が評価を行う。評価の状況や内容については教職センター委員会で共有され、教育実習の改善の検討を毎年実施する。

**サ その他特記事項**

特になし。

- 5 設置の趣旨等を記載した書類(本文)において、「合格発表が3月下旬となる者を除く入学者に  
対して、数学、英語、そして物理学の基礎的な学力の確認を目的とする入学前教育を実施する」  
ことが説明されているが、合格発表が3月下旬となる「一般選抜/KGスカラシップ一般選抜」及び  
「大学入学共通テスト利用選抜/KGスカラシップ共通テスト利用選抜」のⅢ期入学者の入学選  
抜方法は、Ⅰ期及びⅡ期の入学者選抜方法と同様であり、また、入試科目に含まれる理科科目  
については物理のみならず化学を選択することも可能であることから、Ⅲ期入学者について、特  
に入学後の物理学の基礎的な学力をどのように担保するものであるのか判然としない。このた  
め、審査意見1(3)への対応も踏まえ、Ⅲ期入学者の入学者選抜において、学生に求める物理  
学の基礎的な学力について、Ⅰ期及びⅡ期の入学者選抜との差異を明確にしつつ説明した上  
で、数学、英語、物理学についてのⅢ期入学者の入学後の基礎的な学力をどのように担保す  
るのか明確に説明するとともに、関連する記載を含めて必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見は的確なものであり、合格発表が3月下旬となる「一般選抜/KGスカラシップ一般選  
抜」及び「大学入学共通テスト利用選抜/KGスカラシップ共通テスト利用選抜」のⅢ期受験者が化  
学を選択して合格した場合、日程的なことを鑑み、Ⅰ期及びⅡ期の合格者と同様の入学前教育  
による物理学の基礎的な学力の担保は困難であると考えます。

従って、「一般選抜/KGスカラシップ一般選抜」及び「大学入学共通テスト利用選抜/KGスカ  
ラシップ共通テスト利用選抜」のⅢ期の入試科目に含まれる理科科目については物理のみとするこ  
とに改め、「⑨入学者選抜の概要」をそれに沿ったものに書き改めた。

この修正により、Ⅰ期及びⅡ期の入学選抜において理科科目で化学を選択した入学者が入学  
前教育により獲得する物理学の基礎的な学力が、Ⅲ期の入学者においても担保されることとな  
ると考えます。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(本文)(22ページ)

新	旧
<p>&lt;略&gt;</p> <p><b>⑨ 入学者選抜の概要</b> &lt;略&gt; 各選抜区分の入試については、次のように設定する予 定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● エントリー選抜                     <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;必須 面接/エントリーカード/調査書</li> </ul> </li> <li>● 学校推薦型選抜/KGスカラシップ学校推薦型選抜                     <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;必須 基礎学力(数Ⅰ・数A)/基礎学力(物理基礎ある いは化学基礎)/面接/調査書</li> </ul> </li> <li>● 一般選抜/KGスカラシップ一般選抜                     <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;必須 数学:数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B・数Ⅲ 外国語:コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・英語表現Ⅰ</li> <li>&gt;選択 理科:物理(物理基礎・物理)あるいは化学(化学 基礎・化学)より1科目</li> </ul> </li> <li>● 大学入学共通テスト利用選抜/KGスカラシップ共通テ スト利用選抜                     <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;必修 数学:「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」の両方 外国語:「英語」&lt;リスニングを含む&gt;</li> <li>&gt;選択 理科:「物理」「化学」より1科目</li> </ul> </li> </ul> <p>ただし、合格発表が3月下旬となる、「一般選抜/KGスカ ラシップ一般選抜」及び「大学入学共通テスト利用選抜/KG スカラシップ共通テスト利用選抜」のⅢ期の入試科目に含 まれる理科科目については物理のみとする。</p> <p>&lt;略&gt;</p>	<p>&lt;略&gt;</p> <p><b>⑨ 入学者選抜の概要</b> &lt;略&gt; 各選抜区分の入試については、次のように設定する予 定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● エントリー選抜                     <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;必須 面接/エントリーカード/調査書</li> </ul> </li> <li>● 学校推薦型選抜/KGスカラシップ学校推薦型選抜                     <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;必須 基礎学力(数Ⅰ・数A)/基礎学力(物理基礎ある いは化学基礎)/面接/調査書</li> </ul> </li> <li>● 一般選抜/KGスカラシップ一般選抜                     <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;必須 数学:数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B・数Ⅲ 外国語:コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・英語表現Ⅰ</li> <li>&gt;選択 理科:物理(物理基礎・物理)あるいは化学(化学 基礎・化学)より1科目</li> </ul> </li> <li>● 大学入学共通テスト利用選抜/KGスカラシップ共通テ スト利用選抜                     <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;必修 数学:「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」の両方 外国語:「英語」&lt;リスニングを含む&gt;</li> <li>&gt;選択 理科:「物理」「化学」より1科目</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;略&gt;</p>

- 6 「一般選抜/KGスカラシップ一般選抜」及び「大学入学共通テスト利用選抜/KGスカラシップ共通テスト利用選抜」について、選抜方法が数学や外国語、理科の学力を測るものとなっているが、アドミッション・ポリシーに掲げる「知識や技術を駆使して社会をより良い方向へ変革したいと考えている」ことや「社会に存在する課題を発見し、その解決に積極的に取り組む意思を持つ」ことについて、学力に関する試験のみで判定することは困難であると見受けられることから、示された入学者選抜方法によってアドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を確認できるか判然としない。このため、本学科が定めるアドミッション・ポリシーについて、入学時において全ての学生に求めるものであるのか、又はアドミッション・ポリシーのいずれかを中核的な資質・能力として設定した上で、当該資質・能力を全ての学生に求めつつ、他のアドミッション・ポリシーについて選抜区分ごとに異なる比重で判定するものであるのか明らかにした上で、前者であれば、各選抜区分において、本学部の定める各アドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を適切に身に付けていることを確認することができる入学者選抜が設定されていることについて改めて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。後者である場合には、判定しない又は極めて比重の低いアドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を持つ学生に対して、どのようにディプロマ・ポリシーの達成を担保するのかについて、適切なカリキュラム・ポリシーと教育課程が編成されていることを含めて説明するか、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見を踏まえ、入学者選抜方法によって資質・能力を確認できるよう、以前のアドミッション・ポリシーを整理することにより次のように改めた。

(アドミッション・ポリシー)

- 1) DXの推進に取り組む意欲を持つ
- 2) 大学で学修するために必要な数学と理科、及び英語の基礎的な力を備えている

1)では情報工学の学びを受ける意欲、2)ではその能力を確認しており、いずれの入学者選抜においても1)及び2)の資質・能力を見極めることとし、両者を満たすものを受け入れる方針とする。従って、審査意見の問いに対する回答は、前者とするのが申請の意図である。

受験者の資質・能力は、このアドミッション・ポリシーに沿って、以下のように入学者選抜区分別に確認する。

「エントリー選抜」では面接、エントリーカード等を基にアドミッション・ポリシーの意欲に関する1)を、調査書等を基に能力に関する2)を確認する。

「学校推薦型選抜/KGスカラシップ学校推薦型選抜」では面接等で意欲に関する1)を、基礎学力試験や調査書等を基に2)を確認する。

「社会人選抜」では小論文、面接等を基に意欲に関する1)を、調査書等を基に能力に関する2)を確認する。

「一般選抜/KGスカラシップ一般選抜」及び「大学入学共通テスト利用選抜/KGスカラシップ共通テスト利用選抜」については入学志願票に記載する志望動機を基に意欲に関する1)を、試験の成績を基に能力に関する2)を確認する。



新	旧
<p>① 設置の趣旨及び必要性                      &lt;略&gt;</p> <p>6. アドミッション・ポリシー                      情報工学部情報工学科では、先に述べたディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに沿った<b>アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)</b>を下記のように設定する。カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関及び整合性は、【資料3】に文字の色分けにより示されている。                      【資料3 カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関及び整合性】</p> <p><b>情報工学部情報工学科</b>                      1) DXの推進に取り組む意欲を持つ                      2) 大学で学修するために必要な数学と理科、及び英語の基礎的な力を備えている</p> <p>&lt;略&gt;</p> <p>⑨ 入学者選抜の概要                      情報工学部情報工学科では、先に述べたようにディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに沿ったアドミッション・ポリシーを下記のように設定する。  <b>情報工学部情報工学科</b>                      1) DXの推進に取り組む意欲を持つ                      2) 大学で学修するために必要な数学と理科、及び英語の基礎的な力を備えている</p> <p>1)では情報工学の学びを受ける意欲、2)ではその能力を確認しており、いずれの入学者選抜においても1)及び2)の資質・能力を見極めることとし、両者を満たすものを受け入れる方針とする。</p> <p>&lt;略&gt;</p> <p>受験者の資質・能力は、先に述べたアドミッション・ポリシーに沿って、以下のように入学者選抜区分別に確認する。                      「エントリー選抜」では面接、エントリーカード等を基にアドミッション・ポリシーの意欲に関する1)を、調査書等を基に能力に関する2)を確認する。                      「学校推薦型選抜/KGスカラシップ学校推薦型選抜」では面接等で意欲に関する1)を、基礎学力試験や調査書等を基に2)を確認する。                      「社会人選抜」では小論文、面接、志望理由書等を基に意欲に関する1)を、調査書等を基に能力に関する2)を確認する。                      「一般選抜/KGスカラシップ一般選抜」及び「大学入学共通テスト利用選抜/KGスカラシップ共通テスト利用選抜」については入学志願票に記載する志望動機を基に意欲に関する1)を、試験の成績を基に能力に関する2)を確認する。</p> <p>&lt;略&gt;</p>	<p>① 設置の趣旨及び必要性                      &lt;略&gt;</p> <p>6. アドミッション・ポリシー                      情報工学部情報工学科では、先に述べたディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに沿った<b>アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)</b>を下記のように設定する。カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関および整合性は、【資料3】に文字の色分けにより示されている。                      【資料3 カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関および整合性】</p> <p><b>情報工学部情報工学科</b>                      1) 情報工学を体系的に学び、その知識や技術を駆使して地域社会はもとよりグローバルに社会をより良い方向へ変革したいと考えている人。                      2) 社会に存在する課題を発見し、その解決に積極的に取り組む意志を持つ人。                      3) 大学で学修するために必要な数学と科学そして英語の基礎的な力を備え、さらにそれを伸長する努力を惜しまない人。                      4) 物事を論理的に考えられる人。                      5) 自分の考えを的確に伝え、相手の考えを的確に捉えることのできる人。</p> <p>&lt;略&gt;</p> <p>⑨ 入学者選抜の概要                      情報工学部情報工学科では、先に述べたようにディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに沿ったアドミッション・ポリシーを下記のように設定する。  <b>情報工学部情報工学科</b>                      1) 情報工学を体系的に学び、その知識や技術を駆使して地域社会はもとよりグローバルに社会をより良い方向へ変革したいと考えている人。                      2) 社会に存在する課題を発見し、その解決に積極的に取り組む意志を持つ人。                      3) 大学で学修するために必要な数学と科学そして英語の基礎的な力を備え、さらにそれを伸長する努力を惜しまない人。                      4) 物事を論理的に考えられる人。                      5) 自分の考えを的確に伝え、相手の考えを的確に捉えることのできる人。</p> <p>&lt;略&gt;</p> <p>各選抜区分の入試科目は、先に述べたアドミッション・ポリシーに沿い、数学と英語、そして論理的思考に重きをおく理科目として物理と化学を重視する。そのため「エントリー選抜」の調査書では、数学、英語、物理あるいは化学の評定を重要視すると同時に、面接とエントリーシートにより、アドミッション・ポリシーに合う人材であるかを見極めることとする。                      同様に、「学校推薦型選抜/KGスカラシップ学校推薦型選抜」においても、調査書で数学、英語、物理あるいは化学の評定を重要視すると同時に、基礎学力テストで特に数学と物理あるいは化学の学力を確認し、面接によりアドミッション・ポリシーに合う人材であるかを見極めることとする。                      そして、「一般選抜/KGスカラシップ一般選抜」及び「大学入学共通テスト利用選抜/KGスカラシップ大学入学共通テスト利用選抜」においても、数学、英語、物理あるいは化学の学力により、アドミッション・ポリシーに合う人材であるかを見極めることとする。</p> <p>&lt;略&gt;</p>

(改善事項) 情報工学部 情報工学科

7 基幹教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教育研究実施組織の将来構想を明確にすること。

(対応)

設置の趣旨(本文)の「⑩教員組織の編成の考え方および特色」に箇条書きした6つの項目に加え、以下の2項目を追記することにより、将来構想を明確にするよう改めた。

7) 新学部設置時には情報工学に関する実績と経験を備えた教員が欠かせないことから、基幹教員の年齢構成が高齢に偏る結果となった。今後、この経験豊富な教員が30歳代の若手教員に情報工学に関する知識や経験を伝え、完成年度となる令和10年4月に定年に関する規程を超えている調書番号4及び7の教授2名の後任として、40歳代の准教授1名、30歳代の講師1名を任用する計画である。その人選を令和8年度より開始、令和9年度中に決定することにより、年齢構成が偏らない教育研究実施組織を構築する

8) なお教員調書1の教授に関しては、構想中の大学院修士課程運営のため完成年度以降も任用を継続することを人事委員会で決定している

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(本文)(23ページ)

新	旧
<p>&lt;略&gt;</p> <p><b>⑩ 教員組織の編成の考え方及び特色</b>                      教員組織については、下記の方針により構成することとする。</p> <p>1) 養成する人材像及び3ポリシーを実現するために、コンピュータ工学及びデータ科学を専門とする教員を基本として組織を構成する</p> <p>…(略)…</p> <p>6) 教員経験が長いものとそうでないものの連携を密にすることにより、教員が組織として教育及び研究に機能的にあたる環境を整える</p> <p>7) 新学部設置時には情報工学に関する実績と経験を備えた教員が欠かせないことから、基幹教員の年齢構成が高齢に偏る結果となった。今後、この経験豊富な教員が30歳代の若手教員に情報工学に関する知識や経験を伝え、完成年度となる令和10年4月に定年に関する規程を超えている調書番号4及び7の教授2名の後任として、40歳代の准教授1名、30歳代の講師1名を任用する計画である。その人選を令和8年度より開始、令和9年度中に決定することにより、年齢構成が偏らない教育研究実施組織を構築する</p> <p>8) なお教員調書1の教授に関しては、構想中の大学院修士課程運営のため完成年度以降も任用を継続することを人事委員会で決定している</p> <p>&lt;略&gt;</p>	<p>&lt;略&gt;</p> <p><b>⑩ 教員組織の編成の考え方及び特色</b>                      教員組織については、下記の方針により構成することとする。</p> <p>1) 養成する人材像及び3ポリシーを実現するために、コンピュータ工学及びデータ科学を専門とする教員を基本として組織を構成する</p> <p>…(略)…</p> <p>6) 教員経験が長いものとそうでないものの連携を密にすることにより、教員が組織として教育及び研究に機能的にあたる環境を整える</p> <p style="text-align: center;">新規</p> <p>&lt;略&gt;</p>

(是正事項) 情報工学部 情報工学科

8 本学が公表する情報において、学校教育法施行令第172条の2に規定する、第165条の2第1項に規定により定める方針が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

設置の趣旨(本文)の「⑮情報の公表」における「ア 大学の教育研究上の目的に関すること」を「ア 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシーに関すること」に修正し、下記の下線部分を追記することにより、方針を明示した。

本学の教育理念は「創造」であり、その実現のための三つの教育指針「ふるさとを愛し、地域社会に貢献する」「良識を培い、礼節を重んずる」「社会の要請に応え、構想する力、実践する力を育む」を制定し、公表している。また、各学部及び学科の養成する人材像についてもホームページ上で公表している。さらに、各学部及び学科の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)についてもホームページ上で公開している。

(<https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/outline/#philosophy>, 情報公開>1.学園に関する情報>教育理念・沿革)

(<https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/educational-goal2016/>, 情報公開>1. 学園に関する情報>教育目標及び養成する人材像)

(<https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/3policy2016/>, トップ>金沢学院大学について>金沢学院大学3つのポリシー)

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(本文)(30ページ)

新	旧
<略>	<略>
<b>⑮ 情報の公表</b> <b>ア 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシーに関すること</b> 本学の教育理念は「創造」であり、その実現のための三つの教育指針「ふるさとを愛し、地域社会に貢献する」「良識を培い、礼節を重んずる」「社会の要請に応え、構想する力、実践する力を育む」を制定し、公表している。また、各学部及び学科の養成する人材像についてもホームページ上で公表している。さらに、各学部及び学科の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)についてもホームページ上で公開している。 ( <a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/outline/#philosophy">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/outline/#philosophy</a> , 情報公開>1.学園に関する情報>教育理念・沿革) ( <a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/educational-goal2016/">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/educational-goal2016/</a> , 情報公開>1. 学園に関する情報>教育目標及び養成する人材像) ( <a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/3policy2016/">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/3policy2016/</a> , トップ>金沢学院大学について>金沢学院大学3つのポリシー) <略>	<b>⑭ 情報の公表</b> <b>ア 大学の教育研究上の目的に関すること</b> 本学の教育理念は「創造」であり、その実現のための三つの教育指針「ふるさとを愛し、地域社会に貢献する」「良識を培い、礼節を重んずる」「社会の要請に応え、構想する力、実践する力を育む」を制定し、公表している。また、各学部及び学科の育成する人材像についてもホームページ上で公表している。 ( <a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/outline/#philosophy">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/outline/#philosophy</a> , 情報公開>1.学園に関する情報>教育理念・沿革) <略>

(是正事項) 情報工学部 情報工学科

9 設置の趣旨等を記載した書類において、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引」において説明することを求めている「研究の実施についての考え方、体制、取組」に関する記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

設置の趣旨(本文)の「⑩教員組織の編成の考え方及び特色」の次に「⑪研究の実施についての考え方、体制、取組」の項目を作成し、以下を追記するよう改めた。

⑪研究の実施についての考え方、体制、取組

基幹教員は原則として、各々が独立して各専門分野の研究を行うものとする。ただし、学部内、学内、あるいは学外の教員との共同研究が有益な結果をもたらすと期待できる場合は、それを推奨することとする。研究会、学会、国際会議への参加及び発表に関しても積極的に推奨することとし、それにより得られた知見は学部の研究及び教育に還元することにより、学生の教育も含めた研究レベルの向上に努めるものとする。

研究設備などについては、情報工学部の設置経費により整えた設備・備品・図書・データベース等を基礎としての実施となる。それに加えて、学内で申請することにより取得可能となる個人研究費、学長管理予算内の共同研究費が利用可能である。また、ある程度規模の大きな研究を行う場合は、科研費の基盤研究・挑戦的研究・若手研究等により研究費を獲得することも必要となる。あるいは、情報工学に関連する企業の助成金も研究資金となり、さらには企業や自治体との共同研究体制を整えることにより、研究の推進体制を整える計画である。

基幹教員の中には、科研費や企業助成金の獲得、企業との共同研究などに関する経験が豊富なものが複数名含まれており、その知識や経験を学部全体で共有することにより、学部の研究実施体制を整えることとしている。

研究活動をサポートする技術職員としては、情報システム室の職員があたる計画としている。彼らと協力して、教員の研究としての活用も視野に入れている実習室の整備、及びGPUサーバ、研究室や学生自習室にあるPCとネットワークの管理運営を進めることとしている。また、事務職員の中にURAとしての職務を主とする者が2名在籍しており、主に個人研究費や科研費の申請及び研究費の管理、物品等の見積もり、発注、受取等のサポートを行っている。情報工学部は本学では初の理工系の学部となることから、今後はこの体制をより強化する計画である。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(本文)(23ページ)

新	旧
<略>	
<p>⑪ 研究の実施についての考え方、体制、取組</p> <p>基幹教員は原則として、各々が独立して各専門分野の研究を行うものとする。ただし、学部内、学内、あるいは学外の教員との共同研究が有益な結果をもたらすと期待できる場合は、それを推奨することとする。研究会、学会、国際会議への参加及び発表に関しても積極的に推奨することとし、それにより得られた知見は学部の研究及び教育に還元することにより、学生の教育も含めた研究レベルの向上に努めるものとする。</p> <p>研究設備などについては、情報工学部の設置経費により整えた設備・備品・図書・データベース等を基礎としての実施となる。それに加えて、学内で申請することにより取得可能となる個人研究費、学長管理予算内の共同研究費が利用可能である。また、ある程度規模の大きな研究を行う場合は、科研費の基盤研究・挑戦的研究・若手研究等により研究費を獲得することも必要となる。あるいは、情報工学に関連する企業の助成金も研究資金となり、さらには企業や自治体との共同研究体制を整えることにより、研究の推進体制を整える計画である。</p> <p>基幹教員の中には、科研費や企業助成金の獲得、企業との共同研究などに関する経験が豊富なものが複数名含まれており、その知識や経験を学部全体で共有することにより、学部の研究実施体制を整えることとしている。</p>	新規

研究活動をサポートする技術職員としては、情報システム室の職員があたる計画としている。彼らと協力して、教員の研究としての活用も視野に入れている実習室の整備、及びGPUサーバ、研究室や学生自習室にあるPCとネットワークの管理運営を進めることとしている。また、事務職員の中にURAとしての職務を主とする者が2名在籍しており、個人研究費や科研費等の申請及び研究費の管理、物品等の見積もり、発注、受取等のサポートを行っている。情報工学部は本学では初の理工系の学部となることから、今後はこの体制をより強化する計画である。

<略>

新規

(審査意見以外) 情報工学部 情報工学科

- ・実習の支援体制について(技術支援者がいるのか等)
- ・「確率と統計」を選択科目としている考え方について、及び「マルチメディア表現と技術Ⅰ」「同Ⅱ」を必修科目としている考え方について
- ・「情報科教育法Ⅰ」「同Ⅱ」の担当教員の教科教育法に関する専門性について

(対応)

・今回、追記した⑪研究の実施についての考え方、体制、取組にも記載した通り、研究活動をサポートする技術支援者としては、情報システム室の職員があたる計画としている。彼らと協力して、教員の研究としての活用も視野に入れている実習室の整備、及びGPUサーバ、研究室や学生自習室にあるPCネットワークの管理運営を進めることとしている。また、学生ノートパソコンを学内無線LAN等に接続する際に発生するトラブル、学内システムへのログインに関するトラブル、ノートパソコンの不具合等、実習時等に発生する問題に対しては、教員と共に情報システム室職員が支援にあたることとする。教育実習については、全学教職センター委員会のもと教育実習体制が管理運営されている。

その点を設置の趣旨等を記載した書類(本文)に明記した。

・1年前期の「統計基礎」は、統計学の本質の理解を最重要視するため、可能な限り数学記号や確率を用いない科目として設定している。同じく1年前期の「基礎データ分析」では、手計算では扱うのが難しい量のデータを表計算ソフトウェアで扱うことにより、「統計基礎」の概念を具体的に実感することを目的の一つとしている。これらの学びに、同じく1年前期の「微分積分学」及び「確率基礎」で学んだ数学的記述法と確率の考え方を組み込んだ科目として1年後期に「統計」を用意し、ここで数理的に正確な表現による統計学を身に付ける。これらの科目は全て、必修科目として設定している。

2年前期の「確率と統計」は、1年後期の「統計」と重なる部分が多い科目となるが、確率をメインにして統計学をとらえようとする科目と位置づけている。こちらも重要な科目であると認識しているが、両コースに共通して必ず身につけるべき学びとしては1年後期の「統計」で一区切りについて考え、2年前期の「確率と統計」は必修科目とはせず両コースの選択必修科目として位置づけた。

一方、「マルチメディア表現と技術Ⅰ」では情報工学全体を概観する科目として位置づけ、「同Ⅱ」では、コンピュータ工学コース及びデータ科学コースでの学びをそれぞれ広く紹介することにより、2年次よりのコース選択のガイダンス的な役割を果たす科目として位置づけた。したがって、これら両科目は共に必修科目として設定している。

・藤本祥二教授の業績における、情報科教育法に関する活字業績は2編に留まるものの、現経済情報学部経済情報学科の教職課程(高等学校一種免許状(情報))における「情報科教育法」の科目担当者として、令和2年に文部科学省より科目担当「可」の判定を受けている。その後、令和4年4月より現在に至るまで「情報科教育法」を担当しており、氏の多くの業績が示す情報学の知見にも支えられることにより、科目担当の専門性は備わっていると考えられる。

また、情報工学部情報工学科における「情報科教育法Ⅰ」及び「情報科教育法Ⅱ」(経済情報学部での通年講義を前期と後期に分割したもの)の科目担当者としての適性を、本認可申請とは別途、現在、高等学校一種免許状(情報)の教職課程として文部科学省にて審査中であるが、前判定があることより科目担当「可」となる見込みが大きいと考えている。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(本文)(14ページ、23ページ)

新	旧
<p>&lt;略&gt;</p> <p><b>⑤ 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件</b>  <b>(1) 教育方法</b>            ……(略)……そして、施設・設備等の整備計画で述べるようにBYOD(Bring Your Own Device)環境を構築し、学生自身のノートパソコンを利活用する状況を多くの授業に取り入れる。その際、学生が必要なときに情報ネットワークシステムを介して大学に備わっているサーバ及びデータベースを利活用することを可能とすることにより、大学の施設・設備環境を最大限に教育に活かし、彼らの工学技術者としての能力を涵養する。</p> <p>学生ノートパソコンを学内無線LAN等に接続する際に発生するトラブル、学内システムへのログインに関するトラブル、ノートパソコンの不具合等、実習時等に発生する問題に対しては、教員と共に情報システム室職員が支援にあたることとする。</p> <p>&lt;略&gt;</p> <p><b>⑪ 研究の実施についての考え方、体制、取組</b></p> <p>基幹教員は原則として、各々が独立して各専門分野の研究を行うものとする。ただし、学部内、学内、あるいは学外の教員との共同研究が有益な結果をもたらすと期待できる場合は、それを推奨することとする。研究会、学会、国際会議への参加及び発表に関しても積極的に推奨することとし、それにより得られた知見は学部の研究及び教育に還元することにより、学生の教育も含めた研究レベルの向上に努めるものとする。</p> <p>研究設備などについては、情報工学部の設置経費により整えた設備・備品・図書・データベース等を基礎としての実施となる。それに加えて、学内で申請することにより取得可能となる個人研究費、学長管理予算内の共同研究費が利用可能である。また、ある程度規模の大きな研究を行う場合は、科研費の基盤研究・挑戦的研究・若手研究等により研究費を獲得することも必要となる。あるいは、情報工学に関連する企業の助成金も研究資金となり、さらには企業や自治体との共同研究体制を整えることにより、研究の推進体制を整える計画である。</p> <p>基幹教員の中には、科研費や企業助成金の獲得、企業との共同研究などに関する経験が豊富なものが複数含まれており、その知識や経験を学部全体で共有することにより、学部の研究実施体制を整えることとしている。</p> <p>研究活動をサポートする技術職員としては、情報システム室の職員があたる計画としている。彼らと協力して、教員の研究としての活用も視野に入れている実習室の整備、及びGPUサーバ、研究室や学生自習室にあるPCとネットワークの管理運営を進めることとしている。また、事務職員の中にURAとしての職務を主とする者が2名在籍しており、主に個人研究費や科研費の申請及び研究費の管理、物品等の見積もり、発注、受取等のサポートを行っている。情報工学部は本学では初の理工系の学部となることから、今後はこの体制をより強化する計画である。</p> <p>&lt;略&gt;</p>	<p>&lt;略&gt;</p> <p><b>⑤ 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件</b>  <b>(1) 教育方法</b>            ……(略)……そして、施設・設備等の整備計画で述べるようにBYOD(Bring Your Own Device)環境を構築し、学生自身のノートパソコンを利活用する状況を多くの授業に取り入れる。その際、学生が必要なときに情報ネットワークシステムを介して大学に備わっているサーバ及びデータベースを利活用することを可能とすることにより、大学の施設・設備環境を最大限に教育に活かし、彼らの工学技術者としての能力を涵養する。</p> <p>新規</p> <p>&lt;略&gt;</p> <p>新規</p>